

平成24年度

行ってみる買い元気カー事業実証報告書



びふかニューパブリック協議会

平成25年3月

目 次

I	はじめに	1
II	24年度事業経過	1
III	協議会等の開催状況	1
	1 びふかニューパブリック協議会	1
	2 びふかニューパブリック協議会専門部会	3
IV	平成24年度事業	4
	1 平成24年度事業計画の概要	4
	(1) 事業実施により期待する効果	4
	(2) 事業の推進スケジュール	4
	2 平成24年度事業の実施状況	4
	(1) 高齢者世帯の町内食料品等買い物の宅配事業	4
	(2) 情報端末を活用した買い物システムの構築	8
	(3) 高齢者世帯の見守りのための訪問事業	9
	(4) 宅配用車両の購入(補助対象外)	9
	3 平成24事業の総括	9
	(1) 事業実施による主な効果と課題	9
	(2) 総括	10
V	平成25年度にむけて	10

<資料>

びふかニューパブリック協議会 要綱・委員名簿

新聞報道記事

I はじめに

びふかニューパブリック協議会では、平成24年3月に「行ってみる買い元気カー事業計画書」(以下、「計画書」という。)を策定し、この計画書の基本方針及び目標を達成するために24年度事業を実施しました。この計画書では、本町の人口は減少傾向が続いており、定住化対策は基本的な課題であること、さらに人口構造をみると、高齢者は確実に増えており、元気な高齢者の社会参加促進や、要介護高齢者の支援とともに、高齢者が快適に、そして、安心して生活できる環境づくりが求められ、その一つとして日常生活を支える買い物サポートや見守り活動などが重要なテーマであるとして、高齢者が生きがいをもって暮らし続けることのできる生活環境へと改善するための、買い物を支援するサービスと合わせた見守りなどの活動を事業展開の方向として位置付けています。

平成24年度の事業は、平成24年3月の協議会において確認された方針に基づいて、買い物支援事業の実施、買い物支援システムの構築及び高齢者等の見守り事業の実現に向けた取り組みを実証試験として行いました。

本報告書は、この実証試験の経過や計画書の目標及び検証結果などを示し、次年度以降の事業推進に向けた基礎資料とするものです。

II 平成24年度事業経過

H24. 5. 10	第1回専門部会	24年度事業について提示
H24. 5. 14	第1回協議会	24年度事業について提示
H24. 7. 19	宅配サービスカー購入	軽貨物1台
H24. 8. 28～	買い物支援実証事業参加店舗案内 (175件)	
H24. 8. 28	買い物支援実証事業説明会	協力店舗対象 20事業者参加
H24. 8. 28	買い物支援実証事業参加店舗集約	26店舗
H24. 10. 19	民生委員協議会で説明	
H24. 11. 1～	独居高齢者向け事業周知	382世帯
H24. 12. 5	COMカレッジにて説明	
H24. 12. 21	民生委員協議会へ説明	
H24. 12. 25～	買い物支援登録業務開始	H25. 2. 19現在 35人登録
H24. 12. 25～	宅配サービス開始	対象 13世帯
H25. 2. 26	第2回協議会	25年度事業について提示

III 協議会等の開催状況

【構成団体】

- 美深町商工会・美深町社会福祉協議会・美深町自治会連合会・
美深町自治会女性部連絡協議会・美深町老人クラブ連合会

以上5団体及び町行政の6者

- 協議会体制：委員 13人

1 びふかニューパブリック協議会

(1) 第1回協議会 ～H24.5.14 出席19人

① 買い物支援事業

- ・利用者登録の方法はどうか ～民協のカプセル事業の取り組みもある。対象者を絞り込みながら登録の説明をしていきたい。
- ・宅配には鮮度の問題、時間の問題などがあり、またいろんなケースが考えられるため難しい事業。
- ・宅配業者の選定も難しい事業 ～実証を行って慎重に進めていく。
- ・詳細は今後さらに専門部会を開催しながら詰めていきたい。
- ・実施となれば対象者を絞って、使いやすい事業を構築していく。

② 買い物支援システム構築事業

- ・できるだけ買い物に出かける方が高齢者の健康維持には良いこともある。
- ・限定的な商品とのことだが、本当に買い物に行けない人は生鮮食品を購入したいと思う。
- ・どうやって品物を供給していくか、詳細を議論していく。
- ・高齢者は冬期間の買い物に苦労している。

③ 高齢者等見守り事業

- ・宅配事業だけでなく関連事業として取り組んでいく。

④ 平成24年度事業予算について

- ・車両を購入することだが、実証がうまくいかない場合はどうするか

～NPBは今後も継続するし、新しい公共を担う事業を展開していきたい。難しい事業ではあるが、最適な方法を検討して実施に結び付けたい。見守りは取り組める部分であり、活用が見込める。



(2) 第2回協議会 ～H25.2.26 出席18人

① 行ってみる買い元気カー事業実施状況

12月25日以降の宅配実績についてまとめた。13人の登録で始まった。12月は5件と少なかったが1月は16件、2月は20日現在で19件。スーパーとラルズで利用されている。店舗の増加は無く、登録者は37人。

車両やグッズの購入状況、委託契約状況について記載。ステッカー、ノボリも作成。

見守り事業については、登録者のうちから見守り必要な人について福祉と協議中。おつかいケンには導入経費がかかりすぎるため、導入は困難な見込み。安価に導入した場合は来年度以降利用料がかかる仕組み。件数を考えた時利用料負担は難しい。

- ・実際の利用はラルズとスーパー。依然として自前で配達している店舗もあるため、宅配利用はこの2件。しかし少しづつ利用は増えている。定着には時間かかる。
- ・仲間うちでは便利だとの意見である。
- ・ある時期が来たら登録者にアンケートなどが必要と考えている。

② 平成25年度事業計画について

宅配と見守りを行う場合、シルバーや小売店が行うことには限界があるため、25年度は地域おこし協力隊による事業実施を考えている。総務省の財政支援がある。宅配、見守りに加え美深町の情報発信や都市との交流事業など、地域協力事業などにも取り組んでもらう。また、将来的には移住、定住を目指す。隊員の発想によりサービスの充実なども期待できる。

- ・全国から隊員を2名募集して事業実施すれば、総務省の財政支援がある。見守りの含めて展開したい。隊員は都市から転入してくるので、住所、場所などわかりにくいデメリットもある。
- ・高齢者からは御用聞きの要望もある。隊員がやるとなれば電話注文などすることも可能か～現行のシステムでは店舗で買い物が原則であり、今後もその考えであるが、隊員が実施するなかで改善していければ協議会に相談したい。
- ・いい提案である。1年や3年で隊員がなじんでできるか。特に見守りするとすれば心砕く必要がある。できるか心配。登録者は今後増えてもいいのかどうか。車の事故、賠償はどうなるのか。
- ・隊員が来てくれるならば、私たち地域としても温かく受け入れるようにしなければならない。
- ・町民と触れ合う機会を多く作り、私たちもサポートしなければならない。

2 びふかニューパブリック協議会専門部会

(1) 第1回専門部会 ～H24.5.10 出席9人 (オブザーバー：商工会商業部長)

① 買い物支援事業

<店舗パターンA>

- ・固定店舗には説明し、協力をお願いする。

<店舗パターンB>

- ・商工会部会としても各店舗の配達状況は把握していない(大内)
- ・各店舗には事業参加の投げかけを行う
- ・利用登録や登録の基準は民生委員協議会と協議しながら行う
- ・利用手数料は1回100円が妥当

② 買い物支援システム構築事業

- ・商品を絞って、限定的に掲載する
- ・利用者への丁寧な利用説明が必要
- ・画面と実物の違いを考慮し、商品を掲載
- ・利用手数料は1回100円が妥当
- ・高齢者には弁当や総菜の需要も高い～弁当の掲載は良いのではないか
- ・システムからの注文は宅配事業者が一括で受け、買い物を代行し、配達時に集金

③ 高齢者等見守り活動との連携

- ・民生委員の命のカプセル事業は65歳以上、独居が対象。370世帯の予定。
- ・5月中旬から実態調査に着手～見守りが必要かの判断を行う
- ・端末システムで毎日確認する画面を対象者に配信～返信がない場合の見回り、相談など行う

IV 平成24年度事業

1 平成24年度事業計画の概要

高齢者が生きがいをもって暮らし続けることのできる生活環境へと改善するため、高齢者世帯の町内食料品等買い物の宅配事業及び防災情報端末を活用した見守りのシステム構築を行った。

(1) 事業実施により期待する効果

- ・高齢者の荷物運搬回避など重労働が回避される
- ・高齢者が食品を購入することで、健康が維持される。(偏食の防止)
- ・農業繁忙期に買い物に行く時間が省かれる。(買い物労働の軽減)
- ・地場産品、地元消費が高まる。(商業の活性化)
- ・高齢者の安否確認を行う。(安心なくらしの実現)
- ・高齢世帯の問題解消のための商工業者へのコーディネート。(

(2) 事業の推進スケジュール

事業内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
協議会		中旬開催 (謝金支払)		中旬開催 (謝金支払)					中旬開催 (謝金支払)		下旬開催 (謝金支払)		
専門部会		上旬開催 (謝金支払)		上旬開催 (謝金支払)				下旬開催 (謝金支払)			中旬開催 (謝金支払)		
宅配事業委託費		中旬発注	実施	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)	(支払)
関連事業				フレックスバスによる買い物移動支援(町実証連行事業)									
			命のカプセル設置事業(民生委員協議会)										
システム委託費		上旬起工発注	月末完了	(支払)									
買い物支援				買い物システムを用いた買い物支援実施									
設備費(補助対象外)		上旬起工発注	車両ほか設備購入										

2 平成24年度事業の実施状況

(1) 高齢者世帯の町内食料品等買い物の宅配事業

広大な土地を有する本町において、高齢者等が生活する上での不安要因となっている買い物について、宅配の実施によって荷物運搬など重労働回避による負担軽減を図るとともに、地元消費の拡大につなげることができた。また、事業の実施にあたっては町内商工業者に事業説明を行うことで、小売店以外からの参加もみられるなど高齢者の安心な暮らしの実現に向けた福祉と商工業の連携について理解がみられた。

① 利用者登録

ア 65歳以上の独居高齢者を対象に文書で周知を行い、登録を行った。

対象件数 382人

登録期間 平成24年11月1日～随時

- イ 民生委員協議会へ事業説明を行い、高齢者への周知を依頼した。
 - H24. 10. 19 民生委員協議会で説明
 - H24. 12. 21 民生委員協議会へ説明
- ウ 宅配事業者(シルバー人材センター)において、高齢者宅への訪問や電話によって事業周知と登録の呼びかけを行った。
 - H24. 12. 25～ 買い物支援登録業務開始
 - H25. 2. 19 現在 35 人登録
- エ 利用登録数(平成25年3月末現在) 40人
- オ 登録者への配付物
 - a 宅配事業の手引を作成して配布
 - b 宅配利用備品の配布

買い物の際の荷物の誤配送を防ぐため、利用登録番号札、レジバック及び買い物用保冷バックを作成し、利用登録者に配付した。配付は登録の都度随時宅配事業者(シルバー人材センター)が行った。

登録高齢者に配布した「宅配事業のしおり」

買い物宅配サービスを開始します

この度は買い物宅配サービスにご登録くださり、ありがとうございます。

この、宅配サービス『**行ってみる買い元気カー事業**』は、買い物したものが重く、自宅まで持ち帰ることが大変な高齢者等に対し、荷物を自宅まで配達するサービスを試験的に行うものです。

事業開始の準備が整いましたので、利用の方法についてお知らせします。

- 事業の開始
平成24年12月20日(木)から
- 実施期間
平成25年3月30日(土)までの試験
(利用の状況によって4月以降も継続することがあります)
- 利用可能なお店
26店
(別紙一覧表のとおり)

<この件に関するお問合せ>
びふかニューパブリック協議会
【事務局】
役場総務課企画グループ
電話 2-1645
防災情報端末 2-1611

ご利用の手順

買い物と配達的时间

<午前便(ごぜんびん)>
午前11時までのお買いものは
⇒ 午後1時から配達します

<夕方便(ゆうがたびん)>
午後3時までのお買いものは
⇒ 午後4時から配達します

【ニューパブリック号】
この車両でお届けします!

※注意：配達できないもの※
・サイズが大きいもの(設置が必要な電器製品、家具、一人で運べないものなど)
・高価なもの(3万円以上の品物) ・重いもの(30kgより重いもの)
・現金、小切手類や貴重品類 ・薬物、劇物類 ・美術品、骨董品など
・犬、猫、鳥など動物類 ・他の荷物を傷つける恐れのあるもの
・ガソリンなど爆発、発火の危険を生ずる恐れのあるもの
・運送上、他の荷物の輸送の安全を損なう恐れのあるもの
・他の荷物に臭い、シミなどをつける恐れのあるもの ・手紙、願書、申請書
・配達までに腐敗変質する恐れのあるナマモノ類 など

宅配サービスを利用できるお店

※平成24年12月17日現在の登録店舗です (今後、取り扱い店舗は増える可能性があります)

店名	商品名	住所	電話
關アツル	あうる	美濃町大字307番地	2-1000
いけの	いけの	美濃町大字東北1丁目	2-1005
銀行おみやげ	いしごうじやび	美濃町大字東北4丁目	2-1579
銀行おみやげ	ういでんこしや	美濃町大字東北3丁目	2-1129
関がら	おぐら	美濃町大字東北1丁目	2-1194
関がらおみやげ	おみかかし屋	美濃町大字東北2丁目	2-1158
関がらおみやげ	おたきやうしや	美濃町大字東北3丁目	8-7633
グストハウスびふか	げすとほうすびふか	美濃町大字東北6丁目	2-3334
万葉の館	しんしのいの	美濃町大字東北3丁目	2-1411
関がらおみやげ	しよくらんようがい	美濃町大字東北1丁目	2-1781
(印) 白井商店	しらいしょうてん	美濃町大字東北1丁目	2-1658
すしまる	すしまる	美濃町大字東北2丁目	2-3877
関がらおみやげ	すしみいぬさん	美濃町大字東北5丁目	2-3355
関がらおみやげ	そのせきようがい	美濃町大字東北2丁目	2-1675
関がらおみやげ	たなかもーとす	美濃町大字東北3丁目	2-1379
タモト印刷製菓店	たもと印刷製菓店	美濃町大字東北2丁目	2-1343
關中国産店	なかとくてん	美濃町大字東北1丁目	2-1794
関がらおみやげ	のりくしやうてん	美濃町大字東北1丁目	2-1176
関がらおみやげ	ばばしょうてん	美濃町大字東北2丁目	2-1771
関がらおみやげ	びふかじやう	美濃町大字東北2丁目	2-1258
会社おみやげ	びふかじやう	美濃町大字東北2丁目	2-1257
関がらおみやげ	びふかじやう	美濃町大字東北2丁目	2-1661
関がらおみやげ	みなみさかじやうてん	美濃町大字東北4丁目	2-1380
関がらおみやげ	みやおみやげじやうてん	美濃町大字東北7丁目	2-1420
関がらおみやげ	おみかいようてん	美濃町大字東北1丁目	2-1047
関がらおみやげ	らるす	美濃町大字東北3丁目	2-1788

② 店舗の登録

利用者の様々な買い物ニーズに対応するためには、多様な店舗での対応が必要となる。買い物の選択の多様性があることが、このシステムの成否の鍵の一つになるため、全町的な店舗の参加に向けた説明会等を行い理解を求めた。

最終的な登録店舗は26店(全体の3.6%)と多くはないが、おそらく宅配が発生しないであろう工務店や整備工場などからも登録があり、事業の趣旨に賛同し理解を得られたことは大きな成果であった。

ア 対象店舗説明会の開催

日 時：平成24年8月28日(火)午後7時から

場 所：美深町商工会

案内数：美深町商工会員175件

(商業部会54件、サービス業部会64件、工業部会58件)

出席数：20社

イ 登録申し込み店舗

26店(商業部会20件、サービス業部会2件、工業部会4件)

店 舗 ・ 商 店 名		住 所	電 話
㈱アウル	あうる	美深町字大手307番地	2-1000
いけの	いけの	美深町字大通り北1丁目	2-1005
㈱石戸谷商事	いしどやしょうじ	美深町字西1条南4丁目	2-1579
㈱宇野電工社	うのでんこうしゃ	美深町字大通北3丁目	2-1129
㈱おぐち	おぐち	美深町字大通り北1丁目	2-1134
㈱丸福川岡菓子舗	かわおかかしほ	美深町字大通り北3丁目	2-1158
㈱北ぎゆう舎	きたぎゆうしゃ	美深町西1条北3丁目	8-7633
ゲストハウスびふか㈱	げすとはうすびふか	美深町大通り南6丁目	2-3334
写真の池野	しゃしんのいけの	美深町字大通り北3丁目	2-1411
(資)殖産商会	しよくさんしょうかい	美深町字東3条北1丁目	2-1781
(同)白井商店	しらいしょうてん	美深町字東1条北1丁目	2-1658
すしまる	すしまる	美深町字東2条北2丁目	2-3377
㈱エイシンびふか 【セブンイレブン】	せぶんいれぶん	美深町西1条南5丁目	2-3355
㈱園部商会	そのべしょうかい	美深町大通り南2丁目	2-1675
㈱田中モータース	たなかもーたーす	美深町字東3条北3丁目	2-1379
タモト時計眼鏡店	たもととけいめがねてん	美深町字大通り北2丁目	2-1343
㈱中田肉店	なかたにくてん	美深町字東2条南1丁目	2-1734
野作商店	のさくしょうてん	美深町字大通り北1丁目	2-1176
㈱馬場商店	ばばしょうてん	美深町字大通り北2丁目	2-1771
㈱美深自工	びふかじこう	美深町字敷島127番地	2-1258
今村商事㈱ 【美深スーパー】	びふかすーぱー	美深町字東1条南2丁目	2-1737
㈱美深ハイヤー	びふかはいやー	美深町字大通り南4丁目	2-1661
南坂精肉店	みなみさかせいにくてん	美深町字大通り北4丁目	2-1380
宮岡精肉店	みやおかせいにくてん	美深町大通り北7丁目	2-1420
山井商店	やまいしょうてん	美深町字東1条北1丁目	2-1047
㈱道北ラルズマート美深店 【ラルズ】	らるず	美深町字大通り北3丁目	2-1788

ウ 登録店舗表示のため、ミニのぼり、のぼり、ステッカーを作製して配布した。



ミニのぼりとステッカー



のぼり

③ 高齢者支援事業委託業務

ア 契約内容

委託業者： 公益社団法人 美深町シルバー人材センター

委託期間：平成 24 年 12 月 11 日～平成 25 年 3 月 30 日

委託金額：1,562,000 円

イ 業務内容

a 買い物支援業務

高齢者が買い物した商品を自宅に届ける。

宅配サービスの流れ

- ① お店に買い物に行く
- ② 買った商品を清算し、入れ物に入れる
- ③ 買った商品・宅配サービス番号札・レシートをお店の人に預ける
- ④ 宅配業者が自宅まで商品を届ける（あらかじめ決まっている時間）
- ⑤ 自宅で商品を受取る～レシートで確認

b 見守り活動

高齢者宅に対する見守り活動を行う。

c 弁当宅配業務

注文のあった弁当を、高齢者宅に宅配する。

d 高齢者登録業務

高齢者支援事業対象者に対する
業務内容の説明と登録作業を行う。

3 月末現在利用登録総数 39 件

ウ 高齢者が安心して配達・訪問を受けられるように宅配事業者であることを明確化
にするため、スタッフブルゾンを作成し着用した。

エ 宅配物の安全輸送のため配達用買い物かごを車両に装備した。



配達用買い物かご



スタッフブルゾン、レジ袋ほか

オ 利用実績

a 配達件数 90 日間

	12 月	1 月	2 月	3 月	計
午前便	4	8	24	14	50
午後便	1	8	5	9	23
計	5	16	29	23	73
実人数	3	8	16	10	37

④ 事業用品の購入一覧

宅配スタッフジャンパー	7 着
宅配保冷バッグ	40 個
買い物エコバック	100 個
のぼり	10 枚
店舗用ステッカー	50 枚



行ってみる買い元気カー事業 イメージロゴ

⑤ 効果

ア 利用者の登録を行って宅配事業を実施した。当初は登録数が少ないままスタートしたものの、委託による電話説明や店舗でのPR、口コミ、報道を通して徐々に登録数が増加した。1日平均で0.8人利用ではあるが定着しつつあり、今後の拡大が期待される。

イ 店舗の利用状況では、スーパー2件の利用に限られた結果となっており、主に食料品の買い物に利用されている。売り出し時の利用が多い状況であり、多量の荷物運搬などに重労働回避につながった。

ウ 登録店舗は26店と少ないが、実際には利用される見込みがない工業部会からの登録もあった。これは全店舗を対象に資料配布及び説明会を開催したことによって、商工業者が事業の趣旨に一定の理解を示してくれたものと考えている。

エ 今年度行った事業を基盤に、来年以降も事業を継続することが協議会で確認された。高齢者の安否確認や生活コーディネート実現など、買い物支援をきっかけにした高齢者世帯が安心して生活できる地域形成づくりに向けて、地域・関係団体に一定の合意ができたことは大きな成果である。

(2) 情報端末を活用した買い物システムの構築

23年度に、防災情報端末機を活用した買い物システムの特徴や画面イメージ、機能について確認したところであるが、実際の運用にあたってのシステム改修を具体的に協議した。システムを利用したの買い物発注は、掲載商品の管理が難しいことや利用者が実際に手にとって商品を選択したいとのこと、さらに次年度以降もシステムのランニングコストがかかることがネックとなり導入を見送った。



一方で、見守りの部分では防災情報端末機配信によって比較的容易に高齢者が回答できることから導入することとし、必要なシステム改修を委託した。

H24. 12. 13 NTT担当者システム設計協議・業務イメージ提案
システム運用課題確認・検討

H25. 2. 14 NTT担当者システム構築経費について協議

① 防災情報端末機子局管理端末設定業務委託

利用者に対して町から毎日安否確認のお知らせを防災情報端末機で配信し、返信

ボタンによって回答する仕組みとし、その返信を宅配受託者が受け確認するための子局機能を追加した。

委託期間：平成 25 年 3 月 19 日～平成 25 年 3 月 28 日

委託料：745,500 円

受託者：日本コムシス株式会社

② 効果

受託事業者において防災情報端末機の子局から安否情報を確認することができることとなり、迅速な対応をすることができる。また、今後、受託者が変更になった場合も子局を移設することによって、安否確認継続することが容易である。

(3) 高齢者世帯の見守りのための訪問事業

見守りについては、システムを整備したことによって、定期的な確認が実施できる状況となった。しかし、地域自治会や民生委員との役割分担など、一部調整が必要な課題も残っているところであり、25 年度以降も協議会による検討を継続し、支援体制を確立を急ぎたい。

(4) 宅配用車両の購入(補助対象外)

宅配事業を円滑に実施するため、宅配専用車両を 1 台を購入した。

車種：スバルサンバーバン
・トランスポーター

納車日：平成 24 年 7 月 19 日

購入価格：1,572,420 円

購入先：(有)田中モータース

車両は軽運送業の登録車両とした。(黒ナンバー)

(注)写真は登録変更前のため黄色ナンバー

<効果>

専用車両の配備により宅配事業を円滑に実施できた。また、デザインに特徴を持たせたことによって、住民への周知効果があった。



3 平成 24 年度事業の総括

(1) 事業実施による主な効果と課題

- ・ 宅配事業の実施によって高齢者等の荷物運搬など重労働が回避され、買い物に対する不安が解消された。
- ・ 荷物運搬の負担が回避されることで多様な食品購入につながり、健康が維持された。
- ・ 高齢者等が自ら商店で購入するシステムとしたことによって、地場産品、地元消費が高まった。
- ・ 防災情報端末を活用した安否確認システムを構築し、一人暮らし高齢者等と毎日双方向通信を行うことによる安心な暮らしのための基盤を確立した。
- ・ 商工業者への事業参加説明を通して、高齢者の安心な暮らしの実現に向けた福祉と商工業の連携について理解がみられ、多様な店舗の参加を得ることができた。

- ・ 一定の利用が見込めることから平成 25 年度も事業継続することを協議会で確認した。宅配及び見守りの専門の人材を新たに採用することで、更にサービスの質を高めながら推進する計画である。
- ・ 宅配メニュー(弁当)づくりは素案作成を行ったものの実施店舗との協議が進んでいない状況であるが、新しい事業実施体制の中で実現に向けた検討を継続することとしている。

(2) 総括

地域住民・商工業者団体・行政で構成する「びふかニューパブリック協議会」が設立され、主体となって食料品等の宅配と高齢者世帯の見守り、高齢者世帯の生活にかかわる課題解決のための事業を推進した。

昨年度実施した調査等によって、高齢者の生活を支える各種サービスへの要望が少ないこと、中でも高齢者が気軽に出歩き、買い物を楽しむための支援として、買い物後の荷物宅配サービスや、店舗に出向かなくても買い物ができる情報端末機などを利用したサービスの必要性が協議会として共通の認識となったことから、これらの実現に向けた取り組みを行った。

買い物の支援対策は、利用登録者数が40名となり、目標としていた50人には届かないものの微増を続けている。24年度の事業実施にあたっては、商工業者をはじめシルバー人材センター、商工会など多様な組織が参画し、宅配事業に対する必要性の理解も得られたことは大きな成果である。

利用者からも継続の要望があることから、協議会では25年度以降も事業を行うこととしており、美深町の支援も確立しており、サービスの充実に努めたい。

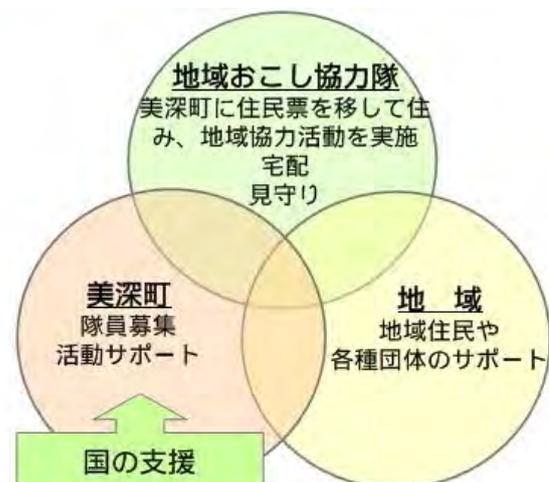
見守りについては、システムを整備したことによって、定期的な確認が実施できる状況となった。しかし、地域自治会や民生委員との役割分担など、一部調整が必要な課題も残っているところであり、25年度以降も協議会による検討を継続し、支援体制を確立を急ぎたい。

今後は、こうした民間側のサービスの充実と併せて、行政による交通ネットワークの充実など総合的に住民生活の利便性向上に力を合わせて取り組み、高齢者等が安心して生活することができるまちづくりにつなげたい。

V 平成25年度に向けて

2か年間にわたる新しい公共支援事業モデル事業によって、美深町における買い物支援事業の一定の方向性を確立することができた。しかし、補助事業が終了することから25年度以降の事業実施にあたり、財源の確保という大きな課題が残されている。また、現在の内容で宅配と見守りを行う場合、シルバー人材センターや小売店がきめ細かなサービスを行うことには限界がある。

こうしたことを乗り越え、25年度以降も事



業を継続するため、地域おこし協力隊による事業実施に移行することとした。これによれば総務省の財政支援があることに加え、宅配、見守りと合わせて美深町の情報発信や都市との交流事業など、地域協力事業などにも取り組んでもらうことが可能になる。さらに、将来的には移住、定住を目指しつつ、隊員の発想により行ってみる買い元気カー事業の充実なども期待できるものである。

幸いにも、協議会としてのこうした方向性について美深町理解と、財政的な支援を得ることができたので、今後も行政や関係機関と連携しながら高齢者が生きがいをもって暮らし続けるための生活環境づくりに取り組みたい。

平成 25 年度 行ってみる買い元気カー事業計画 (案)

< 25 年度の概要 >

- 協力隊員 2人 全国から募集し 6 月頃から活動開始
- 活動拠点事務所の設置
- 宅配カー 1 台

< 美深町の隊員が行う事業 >

- I 宅配サービス
- II 見守り(訪問、声かけ)
- III その他、次のような活動
 - ① 都市との交流事業の応援等
 - ② 美深町の情報発信
 - ③ 集落環境保全への協力
 - ④ 隊員の能力や経験を活かした事業

※将来的には移住・定住、美深町での起業などに期待

びふかニューパブリック協議会
要綱・委員名簿

びふかニューパブリック協議会設置及び運営に関する要綱

(設置)

第1条 少子・高齢化の進行などに伴う人口減少によって、地域の自然環境保全や産業機能が低下し、住民生活全般における支障や課題が発生するとともに今後も増加することが懸念される。これら地域の諸課題を解決し、住みよい町づくりを推進するため、住民や企業・団体と行政が共に担う新たな公共「びふかニューパブリック協議会」(以下「協議会」と言う)を設置する。

(事業)

第2条 協議会は、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 地域課題の把握に関する事項
- (2) 地域課題の解消に向けた検討及び研究に関する事項
- (3) 地域課題の解消に向けた実践事項
- (4) 前各号に掲げるもののほか、協議会が必要と認める事項

(協議会の構成及び構成委員の名称)

第3条 協議会は、次に掲げる者で構成し、びふかニューパブリック協議会委員(以下「委員」という。)と称する。

- (1) 美深町長の指定する町職員3人
- (2) 美深社会福祉協議会長の推薦する構成員2人
- (3) 美深町商工会長の推薦する構成員2人
- (4) 美深町自治会連合会長の推薦する構成員2人
- (5) 美深町自治会女性部連絡協議会長の推薦する構成員2人
- (5) 美深町老人クラブ連合会長の推薦する構成員2人
- (6) 前各号に掲げる者のほか、運営上必要と認める者若干名

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議会の運営)

第5条 協議会に会長を置き、会長は委員の互選による。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。
- 3 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する者がその職務を代理する。
- 4 協議会の議長は、会長が務める。
- 5 協議会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。
- 6 協議会の議決は、出席委員の過半数の賛成によって決する。ただし、可否同数の場合は、

議長の決するところによる。

- 7 協議会は、原則として公開とする。
- 8 協議会の庶務は、美深町役場に事務局を置いてその処理を行う。

(専門部会)

第6条 第2条各号に掲げる事項について専門的な調査、検討、運営等を行なうため、必用応じ専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会は、協議会が必要と認めた者をもって構成する。
- 3 専門部会に部長を置き、部長は会長が指名する。
- 4 専門部会は、必要に応じて関係者を招集し意見を聞くことができる。

(協議結果の取扱い)

第7条 協議会において協議が整った事項について、関係者はその結果を尊重し、当該事項の誠実な実施に努めるものとする。

(経費)

第8条 協議会の運営に要する経費は、支援金、補助金、負担金、交付金、その他の収入をもって充てる。

(監査)

第9条 協議会に監査委員を2人置く。

- 2 監査委員は、会長の推薦する者を協議会の承認を得て決定する。
- 3 監査委員は、監査の結果を会長に報告しなければならない。

(財務に関する事項)

第10条 協議会の予算編成、現金の出納その他財務に関し必用な事項は、会長が別に定める。

(協議会が解散した場合の措置)

第11条 協議会が解散した場合には、協議会の収支は、解散の日をもって打ち切り、会長であったものがこれを決算する。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が協議会に諮り定める。

附則

この要綱は平成23年6月1日から施行する。ただし、第4条に定める委員の任期については、平成23年度は委嘱の日から平成24年度末とする。

びふかニューパブリック協議会委員（平成 23～24 年度）

	所 属	職 名	氏 名	役 職
1	美 深 町 商 工 会	会 長	園 部 一 正	会 長
2		女 性 部 長	菅 野 明 美	
3	美 深 町 社 会 福 祉 協 議 会	会 長	教 重 文 雄	会 長 代 理
4		理 事	曾 我 部 法 子	
5	美 深 町 自 治 会 連 合 会	副 会 長	伊 東 武 雄	
6		事 務 局 長	越 智 茂 信	
7	美 深 町 自 治 会 女 性 部 連 絡 協 議 会	副 会 長	鈴 木 由 美 子	
8		理 事	田 中 秀 子	
9	美 深 町 老 人 ク ラ ブ 連 合 会	副 会 長	本 平 武 士	
10		理 事	匂 坂 澄 子	
11	美 深 町	副 町 長	今 泉 和 司	
12		住 民 生 活 課 長	瓜 田 晃	
13		産 業 施 設 課 長	木 戸 一 博	

専門部

	所 属	職 名	氏 名	役 職
1	美 深 町 商 工 会	事 務 局 長	秋 山 裕 保	部 長
2	美 深 町 社 会 福 祉 協 議 会	事 務 局 長	阿 部 和 憲	
3	美 深 町 民 生 委 員 協 議 会	高 齢 者 部 会 長	十 亀 孝 宣	
4	美 深 町	生 活 環 境 グ ル ー プ 主 幹	望 月 清 貴	
5		保 健 福 祉 グ ル ー プ 主 幹	山 崎 義 典	
6		商 工 観 光 係 長	田 畑 尚 寛	

事務局（総務課企画グループ）

	所 属	職 名	氏 名	役 職
1	美 深 町 総 務 課	課 長	渡 辺 英 行	事 務 局 長
2	総 務 課 企 画 グ ル ー プ	主 幹	玉 置 一 広	事 務 局 員
3		副 主 幹 (企 画 係 長)	小 林 一 仙	

新聞報道記事

平成 24 年 5 月 16 日
北都新聞掲載

買い物支援システム 7月以降に事業実証

びふかニューパブリック協議会

【美深】高齢者の買
い物支援策などを模索

する、びふかニューパブリック協議会（園部一正会長）が14日、町役場で開かれた。今年度は、昨年度までの協議を踏まえ、買い物支援事業、高齢者等見守り事業、買い物支援システム構築事業の実証を行う。

買い物支援事業については、高齢者自らが外出して買い物を行い、店舗から自宅まで荷物を届ける宅配サービスと、防災情報端末機を活用した宅配サービスを行う。

自らの外出による宅配サービスは、宅配業者が、スーパーなど固定店舗へ定時に荷物を回収し、自宅へ配達する場合と、買い物店舗から連絡を受け、回収して配達する場合の2パターンを提示。また、情報端末機を活用した支援策は、コンビニエンスストアや個人店舗、スーパーなどを参加店舗の取扱商品を掲載し、利用者か



買い物支援事業について協議した会議

らの注文を宅配業者で受け付け、買い物を代行して配達する構想を提案した。見守り活動では宅配事業者による定期的な見守り活動で、システムの構築については今後、さらに検討する。いずれも登録制によるもので、事業実証は、6、7月以降を計画している。（加藤知草）

平成 24 年 5 月 17 日
名寄新聞掲載



買い物支援内容説明

びふかニューハブリック協

【美深】びふかニューハブリック協議会（園部一正会長）が、

14日午後1時半から町役場で開かれ、買い物

活に必要なものを宅配サービスする支援事業内容を説明した。

同協議会は、高齢者（特に65歳以上）の生活支援に向けて行政、住民、団体、企業などが相互協力し、新たな公共支援のあり方を検討する場。

本年度第1回目の協議会には、委員や専門部員ら20人が出席。本年度は、高齢者の買い物支援「行ってみる買い物元気力事業」の実証試験を実施するため、事務局が宅配サー

ビス案を説明した。サービス内容は、高齢者自ら出掛けて買い物をしたものを宅配業者が自宅まで届けるというものと、宅配業者が買い物代行・宅配を行う防災情報端末利用のシステムで、2パターンとも利用者登録制。事務局は「買い物に不自由を感じている人のための環境整備を図りたい。また、高齢者の見守り活動では、宅配業者による定期的な見守りや、町が情報端末を通して行う方法もある」とした。

委員からの「どのような方法で利用者登録を行うのか」の質問に対し、事務局は「買い物環境が不自由な人

ど基準を設けるほか、高齢者に対して利用の有無を確認する聞き取りを行う」と説明した。

たくさん買っても手ぶらで楽々

【美深】高齢者向けの買い物宅配サービスの実証試験が25日、町内で始まった。買った商品を後から自宅へ有料で届けてもらう仕組み。手ぶらで買い物をする外出の際の負担軽減のほか、地元店での購買促進を目指す。

美深 実証試験スタート

30万円の補助を受け、対象は65歳以上の独居高齢者で、町へ利用登録が必要。店で会計を済ませ、登録の際に交付された番号札とレシートを店に預けると、宅配事業者が車で商品を宅配する。宅配料は1回1000円。配達日は1日2回で午後3時までに買い物をするれば、当日中に届く。スーパーや商店など26事業所で利用可能。



独居高齢者に宅配サービス

町内には約380人の独居高齢者がおり、26日現在で10人が利用登録をしている。「荷物を持ち帰らなくていいので買い物に楽になった」と好評という、同協議会は「高齢者の見守りにもつながれば」と期待する。

初の配達だった25日は、美深スーパーから食品類が配達用の車両に積み込まれ、山口信夫町長、園部会長らが出発を見送った。試験期間は来年3月まで。同協議会は利用対象の拡大などを検討し、来年度以降も事業を継続する予定。

問い合わせは町総務課企画グループ ☎01656・2・1645へ。

(中央)

(工藤雄高)

町 深 美

高齢者の暮らしを支える

買い物宅配サービス開始

【美深】びふかニューパブリック協議会（園部一正会長）は、今月から買い物に困る高齢者を対象とした宅配サービスを試験的にスタートさせた。

65歳以上の高齢者が自ら買い物した食料品や生活用品を、自宅まで配達する「行つみるかい元気カー事業」。実証試験期間は本年度末まで。

サービス内容は、宅配サービス参加店で会計を済ませた商品が、宅配料100円で自宅に届くというもので、午前便（午前11時までの買い物）は午後1時から、夕方便（午後3時までの買い物）は午



後4時から配達を開始する。

サービス利用1人目となった25日、園部会長や山口信夫町長ら関

買い物宅配サービス実証試験をスタートさせた協議会

係者が見守る中、宅配業者（シルバー人材セ

ンター）が、びふかスパーから町内恩根内まで配達。園部会長は「高齢者の買い物負担軽減を狙った事業。実証試験のため、今後多くの問題が出てくると思うが、多くの人たちに利用してもらいながら問題をクリアしていきたい。また、現登録者は10人程度だが、口コミなどで登録者は増えていくと思う」と話

なお、宅配サービス利用可能な店舗は現在、26店舗。目印は「買い物宅配サービス参加店」ステッカーとミニのぼりとなっているが、同協議会では、取扱店の増加を見込んでいる。

買い物宅配サービスに関する問い合わせは、町役場総務課企画グループ（☎1645、防災情報端末☎1611）まで。

平成 24 年 12 月 27 日
北都新聞掲載

買い物支援がスタート

美 深 高齡者など負担軽減 单身65歳以上対象に宅配

【美深】「びふかニューパブリック協議会」（園部一正会長）による高齡者の買い物支援事業「行ってみる買い元気カー宅配事業」の実証試験が25日、スタートした。スーパーなどで買い物した商品を自宅まで配達するシステムで、1日2便、専用の車両で利用者の買い物を支援する。

（加藤知草）

同事業は、車を持たない高齡者や買い物に行きにくい人が困難な人などを対象に行う宅配サービス。実証試験では、買い物をした商品が重く、自宅まで持ち帰ることが大変な高齡者に対し、荷物を自宅まで配達する。今回は、65歳以上の单身者の町民に対して希望者を募ったところ、25日現在で10人が登録した。

宅配サービスを利用できる店舗は、スーパーや飲食店など17日現在で計26店舗で、「買い物宅配サービス参加店」と書かれたステッカーが目印。配達は、

美深スーパー前で荷物の積み込みが行われた



る「午前便」と、午後3時までの買い物を午後4時から配達する「夕方便」の計2便を配置し、宅配事業はシルバー人材センターに委託した。

平成 25 年 1 月 9 日
北海道新聞掲載

地域けいざい Economy

配達用の車両に商品が積まれる様子を見守る
山口町長（右端）と園部会長（中央） 昨年
12月25日



高齢者向け宅配 美深で始動 買い物に便利に

【美深】高齢者向けの買い物宅配サービスの実証試験が上川管内美深町で始まった。買った商品を後から自宅へ有料で届けてもらう仕組み。手ぶらで買物を済ませられ、外出時の負担軽減のほか、地元店での購買促進を目指す。

町商工会、町社会福祉協議会、町などをつくる「びふかニューパブリック協議会」（代表・園部一正町商工会長）の事業。道のモデル事業に一昨年採択され、準備してきた。本年度の事業費は700万円、このうち道の補助が約430万円。対象は65歳以上の独

居高齢者で、町に利用登録が必要。店で会計を済ませ、登録時に交付された番号札とレシートを店に預けると、宅配事業者が車で商品を宅配する。宅配料は1回100円。配達は1日2回で、午後3時までに買い物をする場合は当日中に届く。スーパーや商店など26事業所で利用できる。

町内の独居高齢者は約380人。サービスは昨年の12月25日から始まり「荷物を持ち帰らなくていいので買い物が増えた」と好評で、同協議会は「高齢者の見守りにもつながれば」と期待する。試験期間は3月ま

で。同協議会は利用対象の拡大などを検討し、新年度以降も事業を継続する予定。
問い合わせは町総務課企画グループ ☎01656・2・1645へ。

平成 25 年 3 月 3 日
名寄新聞掲載

地域興し協力隊が活動

美深町買い物宅配サービス

【美深】びふかニュー
ワセタ「行ってみる買
い元気カー事業」に取
り組んでいる。

だが、本年度での道
補助終了に伴い、同セ
ンターへの委託業務を

解消。新年度から地域
集。地域協力活動を通
おこし協力隊が宅配
して将来的な移住、美
サービス、見守り（訪
深町での起業などに期
問、声掛け）活動を引
待しているが、田舎暮
き継ぐこととなった。
らしに憧れる都市住民
町では25年度、活動
がどれだけのいるかが
拠点事務所を設置する
不透明な状態で、応募
他、全国から新しい公
が無かった場合の事業
共推進担当の地域おこ
推進が課題となってい
し協力隊員2人を募
る。

事業」に取り組んでい
るが、25年度から美深
町シルバー人材センタ
ーに委託していた宅配
業務を、地域おこし協
力隊による宅配事業に
変更する。

同協議会は、北海道
の「新しい公共の場つ
くりのためのモデル事
業補助金」の交付を受
け、高齢者が生きがい
を持って暮らし続ける
ことができる生活環境
をつくるため、買い物
支援と見守り活動を合

順調に利用者増える

美 深 買い物支援宅配事業



来年度は地域おこし協力隊で

【美深】「びふかニューパブリック協議会」(園部二正会長)

は、昨年末からスタートさせた、買い物支援事業「行ってみる買い物力」の元気力「宅配事業」の実施状況をまとめた。

この宅配事業は、車を持たない高齢者や買い物に行く人が困難な人など、65歳以上の単身者に希望を募り、昨年12月25日から始めた宅配事業の実施状況が報告された

新しいサービス。午前と午後で宅配を行っており、利用できる店舗は、町内26店舗となっている。

スタート時は、10人の登録で始まった事業

だが、2月26日現在で利用登録者は37人となり、順調に利用者が増えている。利用店舗は主にスーパーで、これまでの利用日数は計24日、利用回数は計40回となった。

一方で、今年度で道補助事業が終了することと、宅配事業者と福祉守りの連携が課題となっていることか

ら、新年度からは地域おこし協力隊を新たに募集し、地域おこし協力隊員による宅配・見守り事業を展開する計画。

宅配サービス以外にも、訪問を通じて見守り活動へとなげほりか、隊員の能力や経験を生かした事業展開、美深町の情報発信などの取り組みを予定している。地域おこし協力隊による活動開始はおおむね6月ごろを見込んでおり、今後は活動拠点事務所の設置なども計画している。(加藤知草)



びふかニューパブリック協議会

事務局：美深町総務課企画グループ企画係

〒098-2252 中川郡美深町字西町 18 番地

TEL：(01656) 2-1645

FAX：(01656) 2-1626

E-mail：b-kikaku@town.bifuka.hokkaido.jp

URL：http://www.town.bifuka.hokkaido.jp